

令和3年度第1回鹿児島市地域福祉計画推進委員会 会議録（主な質疑等）

1 日時

令和3年8月11日（水）14:00～15:45

2 場所

市民福祉プラザ5階 大会議室

3 出席委員

高橋委員長、園田委員、年永委員、梅津委員、迫田委員、日高委員、北方委員、財部委員、藤田委員、宮竹委員、坂尾委員、吉國委員、中島委員、田淵委員、有馬委員、米山委員、吉永委員、有村委員、川元委員、瀧川委員、中村委員、山本委員、山内委員、新小田委員
24名

<オブザーバー>

市社会福祉協議会地域福祉支援員 5名

4 事務局

鹿児島市地域福祉課ほか

5 議事

- (1) 市民アンケート調査結果（追加報告）
- (2) 第4期地域福祉計画に関連する市の事業
- (3) 第5期地域福祉計画素案

6 主な質疑

- (1) 市民アンケート調査結果（追加報告）

特になし

- (2) 第4期地域福祉計画に関連する市の事業

（委員）

認知症あんしんサポート事業について、認知症の方だけではなく、障害者も行方不明になることがあるので、対象に含めていただければありがたい。

（事務局）

担当課に伝えることとしたい。

（委員）

民生委員・児童委員見守り活動支援事業について、ひとり暮らし高齢者が増えてきている中、見守りは重要となっているため、地域の見守り活動協力事業者を増やして、地域を守っていただきたい。

（事務局）

他の事業者とも協定を結べるよう取り組んでいきたい。

(委員)

家庭ごみの高齢者等戸別収集サービス（まごころ収集）事業について、利用者数は増えてきているのか。

(事務局)

利用世帯数は、元年度211世帯、2年度411世帯で、利用者数は、元年度237人、2年度458人となっており、増加している。

(3) 第5期地域福祉計画素案

(委員)

郡山地区の計画に、「女性参画の地域活動に力を入れていくべきである。」とあるが「べきである」という表現は修正した方がよいのではないかと。

また、「女性参画による福祉活動の減少」の趣旨が分かりにくく、「福祉活動への女性参画推進」とあるが、「福祉活動は女性が行うもの」と捉えられかねないので、表現を修正した方がよいのではないかと。

(事務局)

郡山地区では、近年、地域の女性団体が解散し、福祉活動への女性の参加が少なくなっているという意見があったため、このような表現となっている。表現については、郡山地区福祉推進会議と調整することとしたい。

(委員)

今後の課題の「地域の関係団体のさらなる連携強化」や地域福祉ネットワークは、大事である。地域住民は、地域にどのような団体があって、各団体がどのような役割を果たしているのか知らない方が多い。どうやって地域住民に知ってもらえるか、認知度を上げる取組が必要ではないかと。

(事務局)

施策の展開に「福祉活動の情報発信」を位置づけており、この中で、地域の福祉活動の情報発信に取り組んでいきたい。

(委員)

ケアマネージャーなどは、障害などの専門分野外の相談に対して、どのように対応してよいか分からずに困っている方が多いので、このような方々への支援も考えて欲しい。

(委員)

東京オリンピックを機に、世界から、多様性という視点が日本に求められることとなった。基本理念の説明文に、「多様性を認め合う地域共生社会」など「多様性」という文言が入れば、さらに輝く計画になるのではないかと。

(事務局)

検討させていただきたい。

(委員)

地域福祉支援員には、地域の団体をサポートしていただき大変感謝している。地域福祉支援員の役割は増してきているため、体制を充実させていただきたい。

(事務局)

地域福祉支援員の役割は大きくなってきているため、今後も体制の充実に向けて努力して

いきたい。

(委員)

国のガイドラインでは、自殺対策計画や地域防災計画も地域福祉計画と一体とすることが示されているが、今回、成年後見制度利用促進計画と再犯防止推進計画だけを盛り込むこととした理由を教えてください。また、両計画はそれぞれ別途検討されるが、この推進委員会で、どこまで意見を出してよいものか、また、両計画が似たような構成や書きぶりとなっているが、どのような調整をされたか教えてください。

(事務局)

自殺対策計画などは既に策定されており、成年後見制度利用促進計画と再犯防止推進計画は、同時に策定するタイミングであったため盛り込むこととした。また、両計画は、構成は同じような形となるよう調整したところである。なお、両計画は、別途協議会等で検討されるが、この推進委員会においても、ご意見等があれば、それぞれの協議会等に伝えて、検討していただくことになる。

(委員)

計画策定の趣旨に、「自助」、「共助」、「公助」とあるが、「自助」と「共助」の間に、近くに住んでいる人を助けるという意味で「近助」を入れてはどうか。「近助」は民生委員の中で使っている言葉である。

(委員長)

近所での助け合いは「共助」に含まれると思う。「近助」と聞いて、誰もが一定のイメージが持てる言葉かどうか気になる。

(事務局)

近所での助け合いは「共助」に含まれると考えるが、今後作成する施策の展開の中に、ご意見の趣旨を盛り込むことができるかどうか検討したい。

(委員)

「向こう三軒両隣」という言葉があり、「近助」という考えは大事だと思う。また、ヤングケアラーの問題があるが、子ども達への支援が行き届いていない。施策の展開の中に教育分野との連携とあるので、この中で、何らかの取組が出てくればよい。今回の資料を見て色々気付かされた。福祉活動や民生委員などの認知度が低いので、福祉活動の情報発信が大事であり、具体的に地域でどのように取り組んでいくか、地域で話し合ってみたい。また、この計画を市民全体に行き渡らすことが出来ればよい。

(委員)

基本理念に「みんながつながり」とあるが、みんながつながるのは難しいため、「つながり・支え合う」とし、「生きがい」は「あふれる」ではなく、「みんなが生きがいを持てる」ではどうか。

(事務局)

検討させていただきたい。

(委員長)

次回、素案全体を決定していただくという方向で、私と事務局で内容を調整することとしたい。